



Japanese Utility Model Laid-Open Publication No. 55-145426

Laid-Open Date: October 18, 1980

Japanese Utility Model Application No. 54-44246

Filing Date : April 4, 1979

Inventor : Yukiaki Tani

Applicant: Asahi Insatsu Shiki Kabushiki Kaisha

PAPER BOX WHICH UTILIZES PAPER SEPARATION PROPERTY

A paper box of this invention uses a separation property of paper. In the paper box, each of at least a front surface 1 and side faces 2 and 3 is formed by two plates. That is, the front surface 1 and the side faces 2 and 3 are formed by inner plates 1A, 2A, and 3A and outer plates 1B, 2B, and 3B. On the other hand, a single swing type fitting lid 10 is formed by using a folding line 20 that connects an upper lid 4 and a back face 5 to each other as a supporting point and providing break lines 21 that diagonally extend down on the outer plates 2B and 3B of both the side faces from both ends of the folding line and are connected to each other on the outer plate 1B of the front surface. Moreover, rulings 2a and 3a in a notch-like shape are provided on the inner plates 2A and 3A that are arranged in the inside of both sides of the fitting lid, respectively. The inner plates 2A and 3A at the side faces of the fitting lid are bonded to the outer plates 2B and 3B in the portions having the notch-like shape, respectively.

⑯ 日本国特許庁 (JP) ⑮ 実用新案出願公開
 ⑰ 公開実用新案公報 (U) 昭55—145426

⑪Int. Cl.³
 B 65 D 5/54

識別記号 行内整理番号
 6452—3E

⑬公開 昭和55年(1980)10月18日

審査請求 未請求

(全 3 頁)

④紙の剝離性を利用した紙箱

②実願 昭54—44246
 ②出願 昭54(1979)4月4日
 ③考案者 谷幸明

富山市黒崎五〇番地朝日印刷紙器株式会社内

④出願人 朝日印刷紙器株式会社
 富山市黒崎五〇番地
 ⑤代理人 弁理士 若林拡

⑥実用新案登録請求の範囲

少なくとも前面1と両側面2, 3を各内板1A, 2A, 3A、外板1B, 2B, 3Bの二枚で構成し、一方上蓋4と背面5とを連設する折曲線20を支点とし、かつ該折曲線の両端から前記両側面の外板2B, 3Bを斜降し、前記前面の外板1Bで結ぶ破断線21を設けて片開きの嵌め蓋10を構成し、かつ該嵌め蓋両側内側の内板2A, 3Aに切り欠き形状に刻線2a, 3aを設け、かつ当該切り欠き形状部で嵌め蓋側面の内板2A, 3Aと外板2B, 3Bとを貼着して成る、紙の剝離性

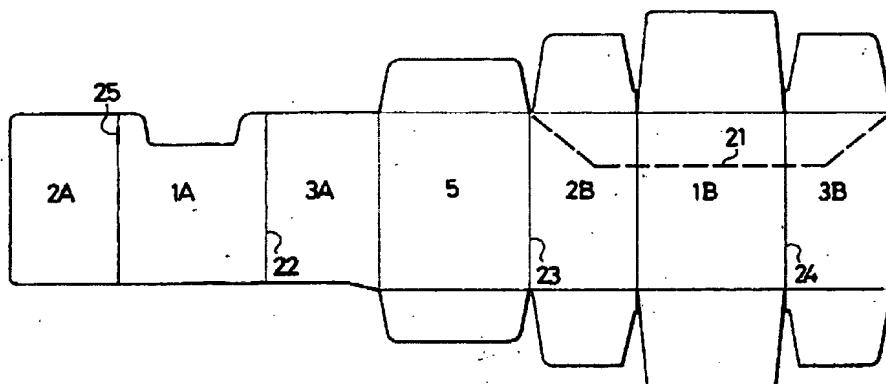
を利用した紙箱。

図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示すもので、第1図は展開図、第2図及び第3図は折曲線付の順序を示す説明図、第4図は封蔵状態の斜視図、第5図は蓋を開いた状態の斜視図である。

1……前面、2……両側面、2a, 3a……
 刻線、1A, 2A, 3A……内板、1B, 2B,
 3B……外板、4……上蓋、5……背面、10…
 …嵌め蓋、20……折曲線、21……破断線。

第1図



公開実用 昭和55—145426



実用新案登録願

昭和 54年 4月 4日

特許庁長官

殿

1. 考案の名称

紙の刺離性を利用した紙箱

2. 考案者

フリガナ
住所

富山市黒崎五〇番地

フリガナ
氏名

朝日印刷紙器株式会社内

谷

翠

義

3. 実用新案登録出願人

フリガナ
住所

富山市黒崎五〇番地

フリガナ
氏名(名称)

アサヒインク印刷紙器株式会社

(固籍)

取締役社長 朝 翼 重 翔

4. 代理人

〒 110 〒 845-4847

住所

東京都台東区東上野 5丁目1番8号

氏名

弁護士 (6318) 若 林

5. 添付書類の目録

(1) 明細書 1通
(3) 著作権証 1通(2) 図面 1通
(4) 委任状 1通方
密
封
印

54 044246

ノンスリーブ

明　　細　　書

1. 考案の名称

紙の刺繡性を利用した裁縫

2. 實用新案登録請求の範囲

1. 少なくとも前面(1)と内側面(2)(3)を各内面

(1A)(2A)(3A)、外面(1B)(2B)(3B)の二枚で構成し、一方上邊(4)と背面(5)とを連続する折曲部山を支点とし、かつ該折曲部の内端から前面内側面の外側(2B)(3B)を斜めに削り、前記前面の外側(1B)で結ぶ破断部山を設けて片端きの嵌め部山を構成し、かつ該嵌め部内側の内側(2A)(3A)に切り欠き形状に割離(2a)(3a)を設け、かつ当該切り欠き形状で嵌め部山の内側(2A)(3A)と外側(2B)(3B)とを貼着して成る、紙の刺繡性を利用した裁縫。

3. 考案の詳細を説明

本案は予め貼着した部位が刺繡時に紙の刺繡作用によつて刺れるようになし、これに依つて到底効果その個体のぬき或れた効果をもたらすようにした裁縫に関する考案である。

既存のこの構成は予め枠本体と蓋を透明自在に構成し、閉塞状態であればプラスチックフィルムで封緘する等の手段によつていた。

本発明は、このような手段を掛けることなく、枠の周壁を二枚合せとし、外側の枠部に破断線を設けるとともに二枚の枠部の一端を貼着し、開蓋時に当該貼着部位が歯の制限作用で剥れて垂付部となるようにしたものである。

以下本発明に係る構成につき詳説するに、その構成は、少なくとも前面(1)と両側面(2)(3)を各内側(1A)(2A)(3A)、外側(1B)(2B)(3B)の二枚で構成し、一方上面(4)と背面(5)とを連絡する折曲部を支点とし、かつ該折曲部の内端から前面両側面の外側(2B)(3B)を剥離し、前面両側面の外側(1B)で結ぶ破断線を設けて片開きの嵌め込み部を構成し、かつ該嵌め込み部内端の内側(2A)(3A)に切り欠き形状に切出(2a)(3a)を設け、かつ当該切り欠き形状で嵌め込み部両側面の内側(2A)(3A)と外側(2B)(3B)とを貼着したことを特徴とする。

図は本体の一実施例を示すもので、第1図は展開した一枚張きの型紙を示し、第2図及び第3図は折曲部付の順序を示す説明図、第4図は袋包装物を収納して封底した状態の斜視図、第5図は破断端面を破つて底の蓋を開いた状態の斜視図を示す。

なお図式実用例は、既設のサックマシン（折りたたみ糊付け機）を用いて直進に通するよう、一枚の型紙を折り出しが糊付けだけで本実施例の構成が実現できるよう工夫してある。

折曲部糊付けの順序は、まず側面内凹(2A)の外表面の一端邊に糊付けし、折曲部凸で折る（第2図）。このとき前述の切り欠き形状の端部(2a)部分は、側面内凹(2A)（なおもう一方の側面内凹(3A)についても同様）の上部糊付け端上端に位置するように取ける。

次に側面内凹(3A)の外表面の一端邊に糊付けし、折曲部凸で折る（第3図）。

次いで折曲部凸で折り、これを斜めにして底蓋を糊付けし、袋包装物を収納した後、上蓋を糊

公開実用 昭和55—145426

付けして封緘する(第4図)。

そして収納した被包物をとり出すには、破断部を破り開封する。このとき内側面内壁の削起部(2a)(3a)の切り込み形状(これは盖山の内側面と接着されている)で剥離が生じ、開閉自在の片開き蓋山が形成される(第5図)。

なお図中Aは蓋の係止作用をなす切り込みである。

本案に係る構成は概上の如くであるが、その構成から次のような特有の効果が生ずる。

即ち本案は前記(1)と内側面凹(4)を内壁・外壁の二枚で構成し、外壁に設けた破断部を破つて片開きの蓋付容器とをすから、破断部を破る刷は完全な封緘状態となつてあり、しかも蓋山の内側面(外壁)(2B)(3B)と内壁(2A)(3A)とは削起部(2a)(3a)の切り欠き形状で貼着してあるから運搬中に破断部が破れて蓋が開く等の事故がおきない。

また開封時には、上記内側面の内壁(2A)(3A)の切り欠き形状が剥離して蓋が開き、その後

は開閉自在の機構として機能する。

4. 図面の順序を説明

図面は本考案の一実施例を示すもので、第1図は展開図、第2図及び第3図は折曲板付の順序を示す説明図、第4図は封底状態の斜弁図、第5図は蓋を開いた状態の斜弁図である。

(1)	前	面
(2)(3)	内	面
(2a)(3a)	...	側	板
(1A)(2A)(3A)	...	内	板
(1B)(2B)(3B)	...	外	板
(4)	上	蓋
(5)	背	面
W	嵌	め
W	折	曲
W	嵌	断

实用新案登録出願人

朝日印刷機器株式会社

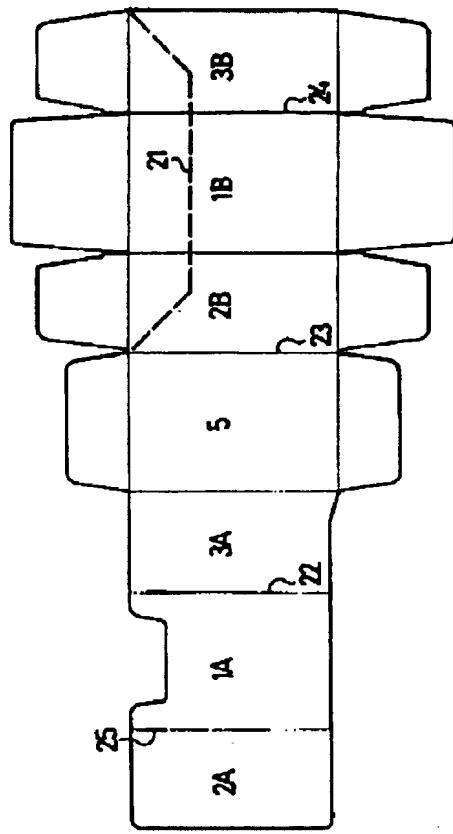
代表人 井端工

右 体 盛

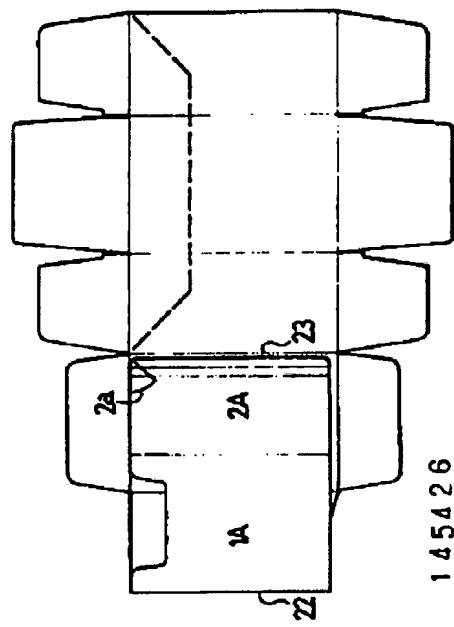
BEST AVAILABLE COPY

公開実用 昭和55—145426

第1図

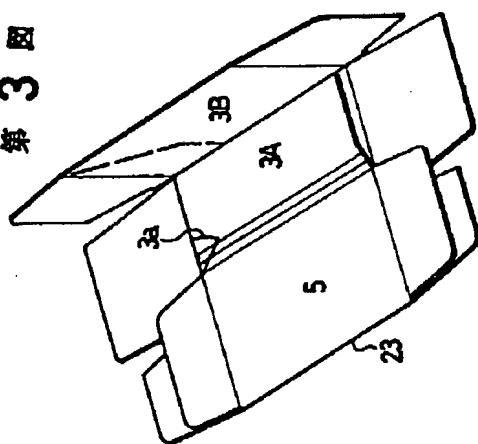


第2図



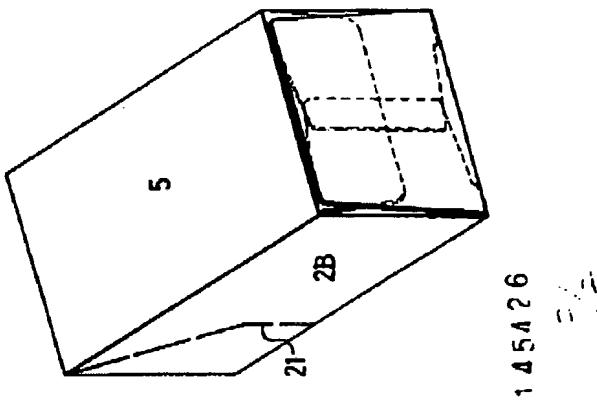
实用新型登録出願人・朝日印刷紙器株式会社
代理人 ジェラルト・若林 淳

第3図

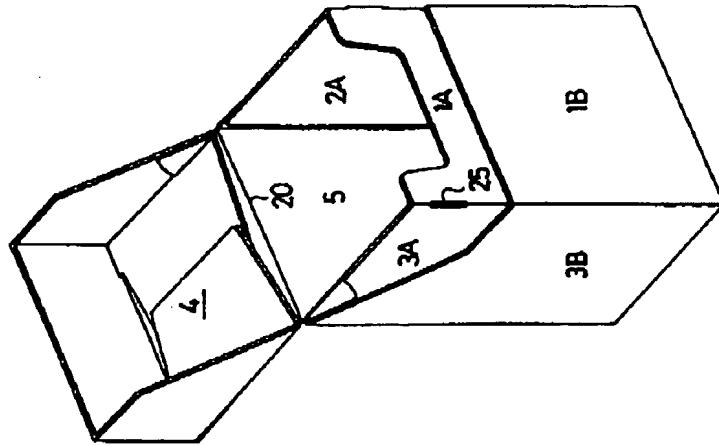


BEST AVAILABLE COPY

第4図



第5図



実用新案登録出願人・朝日印刷紙器株式会社
代理人 ブリティッシュ・ヨーロッパ
代理店 埼玉県川口市大字川口 1-1-1